

甘咬み

子犬にとって正常な行動のひとつです

4～6ヶ月頃に乳歯から永久歯に生え変わる時期で、身近なものをかじりたがります

この時期を過ぎると甘咬みは落ち着くことが多いですが、

甘咬みがみられるときに

「**人には決して咬み付いてはいけない**」と学習させることが大切です！

Point ・咬み付く力が弱いときにしっかり学習させること
・一緒に遊ぶときは必ずおもちゃを用意すること



おもちゃは**2種類**用意しましょう

- ・人と一緒に遊ぶおもちゃ（ボール、ロープなど投げられる物）
- ・ひとり用のおもちゃ（おやつを入れられるコング、かじる物）

※人の手や足でじゃれさせる遊びはやめましょう！



甘咬みされたときは…

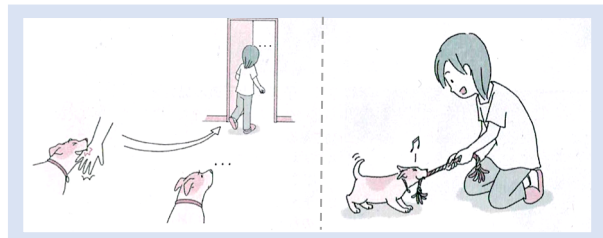
1 「痛い！」と言い、手や足を隠し無視（背を向ける）退室する

2 数十秒後に子犬の元へ戻る

上記を繰り返すことで

- × 歯が当たると遊んでもらえない
- 歯が当たらなければ遊んでもらえる

○か×かの2択で分かりやすく学習させましょう！



{×}

{○}

<やってはいけない行動>

参考：犬と猫の問題行動の予防と対応 p20 水越美奈 緑書房

○強く叱ったり、叩いたりすると

恐怖から、更に咬んでしまう子になってしまいます

○大きさに反応すると、

子犬を興奮させ、咬むと人は反応してくれて楽しいと学習してしまいます

🖋️まとめ

・早期予防が必須

・甘噛みは子犬にとって正常な行動 ⇒ 適切に欲求を満たすことが重要

・甘噛みを放置 ⇒ 人と犬の生命を危険にさらしてしまうかもしれない

・4-5ヶ月齢までに咬みつき抑制を学習させる